

三俣山ダイレクトルンゼ

【報告者】 Dr

【日時】 2018年1月28日

【天候】 曇り

【参加者】 F谷 (CL) I橋 O森 K崎 Dr

《コースタイム》

長者原駐車所(10:00)-分岐(10:35)-ルンゼアイゼン装着(11:30)-氷瀑(13:00)-山頂(14:25)-すがもり越(15:30)-長者原駐車所(16:30)

《 報 告 》

九重にアイスクライミングを交えたルートがあるらしい。日中も氷点下の日が続いたとき限定ではあるが、貴重なルートだ。その名も、三俣山ダイレクトルンゼ。

ルンゼ(ドイツ語: Runse)とは、岩壁の縦にえぐれている溝のことを指し、氷雪や風雨によって浸食されてできる。水流はないことが多い。落石が多いので注意を要する場所である。ダイレクト(英語)ルンゼ(独語)とは、いかにも和製ドイツ語っぽいネーミング。Runse direktのほうがかっこいいなどと考えた。

長者原で、積雪1-2cm、長者原の駐車場から、タデ原湿原脇の林道をすがもり越方向に進み、大きな堰の下を緩やかに右旋した先で、鋭角に左折。クサリを抜けて林道を進む。次の分岐も左に進む。すこしやぶをかき分けて、ルンゼの中に降りる。

この時点で積雪2-3cm。アイゼンハーネスを装着する。

目の前の砂防堤を左の簡単な岩場から巻く。すこしブッシュがあるが、アルパインらしくなる。そのあとは、もうひとつ砂防堤をこえ、斜度の緩い沢筋を岩を避けて進む。徐々に斜度があがり、分岐があり、左の本流を進むと、氷瀑が見えた。高さ4m程度。一部は、10cmを越える厚みがありそうだが、薄いところは、ベルグラ(岩の上に張った薄い氷。アイゼンなしでは滑り、アイゼンがあればバランスが難しいという極めて悪い状態)よりは、ましかなという程度。この地点で積雪は5-10cm。

F谷さんが、アイスクリューを打ち、ザイルをつけて、慎重に登る。一部ボコンボコンという空洞のような音が聞こえる。氷の状態が悪い。以後、各人がセカンドで登った。氷の状態が悪く、氷瀑も小規模なので、遊びたいという人もおらず、早々に終了。あとは、谷に沿って高度をあげ、三俣の南峰と北峰のあいだの最低鞍部に到着。

あとは、西峰の基部をまき、すがもり越えを抜けて、長者原まで歩いた。途中、田中の左ひざが痛み出し、O森さんからストックを借り、ダブルストックで急場をしのいだ。

もうすこし、氷瀑が発達してくれたら、久住としては、雪も深く、アイゼンワークもそこそこ使える、練習用の好ルートである。

《概念図あるいはルート図》

